

●子どもの心

**暖**かい春の日差しが降りそそぐチューリップのお花畑には、色とりどりの花が、  
並んで咲いています。

「わたしの花が、いちばんきれいだわ。」赤いチューリップが言いました。

「ぼくの花が、いちばんきれいだよ。」白いチューリップも言いました。

「あら、なによ。私の花こそいちばんよ。」黄色いチューリップも言いました。

どうやら、どれがいちばんきれいかを競い合っているようです。

「うーん。どうしよう。このままでは、いつまで経っても決まらないよ。」

「そうだ。ここを通る人たちに聞いてみようよ。」

「そうしよう。そうしよう。」

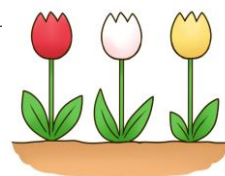
チューリップのお花たちは、通りすがりの人に見てもらって、誰がいちばんかを決めることにしました。

すると、向こうから一人の紳士がやってきます。さっそく聞いて

「どの花がいちばんきれいですか。太陽のように赤いわたしの花

「ふわふわした雲のようなぼくの白い花ですよ。」

「ひまわりのように黄色いわたしの花でしょ。」



すると、一回大きく見渡してから、その紳士は答えました。

「どの花見ても、同じだな。」

次にやってきたのは、高校生のお兄さんです。同じ質問をすると、

「まあ、一応に美しい。どの花見ても、違わないよ。」

そして、向こうから、小学生の女の子がスキップをしながらやってきました。

今度こそ決めてもらおうと、思いを込めてゆっくりと質問を

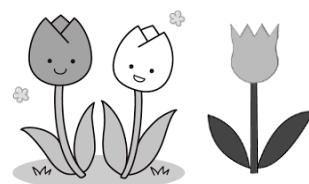
すると、その子はお鼻をすりよせ、お花とお話をしながら、

「お母さんのお化粧のにおいがするよ。」

かわいいもん。すてきだもん。美しいもん。

どの花見ても、きれいだな。

みーんな、い・ち・ば・ん。」



**太**陽のように情熱的な心を持っている赤い花、ふわりと寄り添って包んでくれる  
優しい心の白い花、周囲をまぶしく見つめ憧れの心を持つ黄色い花。どれも素  
晴らしい良さをそれぞれ持ち合わせて、色鮮やかで凛(りん)とした姿で輝いてい  
るのです。「みんな、いちばん」なのです。

♪咲いた咲いたチューリップの花が 並んだ並んだ赤白黄色 どの花見てもきれいだな♪

おさひま やかた  
(修日真 屋形)